



こもれび

地域から信頼され、地域の健康を支え続ける病院を目指して、みなさまと当院をつなぎ、森に差し込む“こもれび”のような、ひとすじの光をお届けします。

Nagasaki Prefecture Shimabara Hospital

2023 4月号



令和5年度新任者転入者入職式

Contents

- ・院長就任のご挨拶
院長 蒲原 行雄 2
- ・新任医師紹介 3
- ・専門医に聞く
「小児と予防医療」
小児科 医長 明石 周爾 4~5
- ・部門トピックス
「緩和ケアセンター」
緩和ケア認定看護師 市川 めぐみ 6
「認定輸血検査技師資格を取得しました」
検査科 輸血班 永田 久乃 7
- ・外来診療一覧表 8

病院理念

〈Mission〉

地域の健康な未来を創造する

〈Vision〉

良質な医療の提供に努め、地域から信頼され、地域の健康を支え続ける

基本方針

1. 安全・安心で質の高い医療を提供する
2. 患者への思いやりのある温かなチーム医療を行う
3. 職員が自ら学ぶ前向きな姿勢をもち、誇りを持って業務を遂行する
4. 医療を取り巻く社会環境の様々な変化に柔軟に対応できる経営の効率化と経営基盤の構築を図る
5. 患者、医療・介護施設から行政まで幅広く対話を図り、地域と連携し、選ばれる病院となる

院長就任のご挨拶

長崎県島原病院 院長 蒲原 行雄



令和5年4月1日より長崎県病院企業団 長崎県島原病院長に就任いたしました、蒲原行雄（かもはらゆきお）です。

私は、2015年に当院外科に着任し、がん、急性疾患を中心とした外科治療（手術）を担当してまいりました。また、地域医療連携センター、医療安全管理室、副院長などの職務を介し、地域と病院の連携や医療安全体制の確立に取り組んでまいりました。

さて、猛威をふるった新型コロナウイルス感染症は、様々な対策のもと今春より5類相当の感染症に移行します。これまでに感染対策で培ったこと、工夫したことを取り入れ、新たな診療体制を再編成しなければなりません。

1) 地域医療構想

島原半島は人口減少と高齢化が全国的にも県内でも急速に進んでいる地域の一つです。

当院は県南医療圏の基幹病院として感染症以外にも、がんや救急、災害医療の中核としての機能を担っていますが、一点集中のみでは限界があり、地域内での機能的な医療の分散、再編成が必要です。コロナ禍が一区切りつく本年より地域医療構想が本格的に始動していくことと思われまます。当院も島原半島の医療の実情を踏まえた医療連携に取り組んでいきます。

2) 情報の発信

医療の現況、当院の得意とする診療、最新の情報などを市民公開講座やホームページを通じて積極的に地域の皆様に提供し“相談しやすい病院”・“頼りになる病院”になることを目指していきます。

3) 働き方改革

県南地区は離島地区に並び人口当たりの医師数が少ない地域です。個人の努力に依存する医療には限界があります。国の方針で働き方改革が導入され、勤務時間上限、休息確保が義務化されます。この主旨に沿いながら多職種による医療チームを結成し、患者さんにより質の高い“チーム医療”を提供できるように取り組みます。従来の慣習的なこととは異なるいくつかの変更もあると思いますが、皆様のご理解をいただきたく存じます。

最後になりますが、当院は島原半島内での医療完結を目指し、職員一丸となって取り組んでまいります。地域の皆様のご協力、ご指導をよろしくお願いいたします。

～略歴～

1989年 大分医科大学卒業（現：大分大学医学部）
長崎大学第二外科（現：移植・消化器外科）入局
以後、関連病院にて研鑽
1999年 医学博士取得
2000年 長崎大学病院 第二外科 助手
2005年 長崎市立市民病院
（現：長崎みなとメディカルセンター） 外科医長
2007年 九州大学別府病院 外科 講師
2008年 長崎大学病院 移植・消化器外科 講師
2009年 国立病院機構 長崎医療センター 部長
（連携大学院 准教授 委嘱）
2015年 長崎県島原病院 外科 診療部長
2017年 同 副院長
2023年 同 院長

●専門領域

消化器外科
肝胆膵外科
一般外科（専門医および指導医取得）

●所属学会

日本外科学会
日本消化器外科学会
日本消化器病学会
日本肝臓学会
日本肝胆膵外科学会
日本乳がん学会
がん治療認定機構

●はじめに

みなさんが子どもの頃、小児科を受診した理由は何だったのでしょうか。多くは風邪をひいたりおなかをこわしたりというものだったかと思いますが、それとは違う大きな受診理由に「予防接種」があったことと思います。

病気になったりケガをしてから治療するのではなく、そうならないように予防することが、本人にとって、そしてご家族やひいては社会経済にとっても利益となります。

今回は、小児の各年代における予防医療について、少しずつですがお話をさせていただきます。

●各年代における予防医療

・妊娠前および妊娠中

小児の各年代と書きましたが、まずは子どもたちが生まれる前の話から始めます。

妊婦では葉酸の摂取が重要というのはご存じと思いますが、赤ちゃんの神経管閉鎖障害のリスクを減らすためには、妊娠前からの摂取が重要です。妊娠を考えている方は、日ごろからバランスの良い食生活を心がけ、必要に応じてサプリメントも活用しましょう。

また、妊娠中に初めて感染すると問題となる病気を総称してTORCH症候群と言います。例えば、その中のひとつトキソプラズマ症にかからないために、妊婦さんは加熱が不十分な肉を食べることを避け、ネコの糞の処理や土いじりには気を付けましょう。

その他喫煙もさまざまな悪影響があり、たとえば常位胎盤早期剥離をおこすと母胎、胎児ともに命の危険がありますし、飲酒によって胎児アルコール症候群になると、顔面の形態異常や脳障害などを引き起こします。喫煙、飲酒はひかえましょう。禁煙は乳幼児突然死症候群（SIDS）を予防するためにも重要です。

・新生児～早期乳児

次に、赤ちゃんが生まれてからの話をふたつさせていただきます。

ひとつは、とても大事な予防接種についてです。短い紙面では書ききれないテーマですが、赤ちゃんが生まれてから一番最初に打つ予防接種で大事なものに、ヒブワクチンと肺炎球菌ワクチンがあります。乳幼児で細菌性髄膜炎を起こし、がんばって治療しても多くの例で知能障害が残ったり死亡したりするものを予防するものですが、このワクチンをみなさんが打つようになってから、これらの細菌性髄膜炎を起こす子どもは激減しています。

もうひとつはRSウイルス感染症についてです。風邪のウイルスのひとつですが、小さな赤ちゃんに感染すると重篤な肺炎、細気管支炎を引き起こしたり、軽症でも無呼吸発作のリスクになります。また小さいころに罹患することで喘息になりやすくなります。感染力も強く、しっかりとした飛沫感染対策、接触感染対策をとることが必要です。また感染した場合に重症化しないため、重症化した場合に必要な治療を早くしてあげるためにも、小さいお子さんをお持ちの方は、症状があるときは早めに小児科を受診させてあげましょう。



・乳幼児

もう少し大きくなると、手が器用になっていろいろなものをつかんだり、ハイハイや走り回ったりし、事故のリスクが増えていきます。

電池や磁石、ご家族の方のお薬やライターなどを飲み込んだなどといったお子さんがいると小児科医としてもヒヤッとします。空き缶やペットボトルの中にタバコの吸い殻を入れるといったことも非常に危険なのでやめましょう。子どもはなんでも口にしますし、子どもの成長はとても早いので、届くはずがないと思ったところにも手が届きます。思わぬところをつたって棚の上や窓の方へも登っていきます。事故の中で死亡原因としてもっとも大きなものが交通事故と溺死です。チャイルドシート、シートベルトは徹底し、子どもたちへの安全教育をしっかりと行いましょう。浴槽のお湯を張りっぱなしにするのはやめましょう。もしも首掛け式浮き輪を使う際は、一瞬でも子どもから目を離さないようにしましょう。

	1位	2位	3位	4位	5位
0歳	先天奇形、変形及び染色体異常	周産期に特異的な呼吸障害等	不慮の事故	乳幼児突然死症候群	胎児及び新生児の出血性障害等
1-4歳	不慮の事故	先天奇形、変形及び染色体異常	悪性新生物	肺炎	心疾患
5-9歳	不慮の事故	悪性新生物	その他の新生物	先天奇形、変形及び染色体異常	心疾患

・学童

この年代になってくると小児科を受診する頻度は低くなっていきますが、その中でも定期的を受診している子どもたちがいます。その中のひとつが小児肥満です。

この時点でなにか本人が困っていることがあることは少ないですが、小児期、思春期に肥満があることで、糖尿病、心筋梗塞などのリスクや、死亡リスク増加に関わります。味の濃いものや油もの、早食いには気を付け、清涼飲料水、菓子パンなども摂りすぎないように注意しましょう。ご家族みんなで楽しく続けられる運動習慣があると良いですね。

もうひとつ、中学生ごろから打つべき予防接種があります。HPVワクチン（子宮頸がんワクチン）です。諸外国では子宮頸がんという病気が過去のものとなりつつありますが、日本では以前のデマの影響で接種率が低く、毎年約1万人の若い女性が子宮頸がんにかかり約3000人が亡くなっています。中学生の女の子がいるご家庭は、打たせてあげるようにしましょう。また、男性でも尖圭コンジローマ、陰茎がんとなりえ、男性への公費接種化が待たれます。

●おわりに

コロナ禍も4年目に入り、社会の状況も変化してきている昨今ですが、新型コロナウイルス感染症が通常の風邪とは違い、重症化や多種多様な後遺症を起こすやっかいな病気であることに変わりはありません。とくに後遺症は長く続く倦怠感や知能低下など治療が難しいものが多く、感染しないにこしたことはありません。子どもたちが心身とも健康に育っていくために、引き続き状況に応じたマスク（不織布）着用などを行っていきましょう。



小児科紹介

小児科は常勤医2名で診療にあたっており、午前中は一般小児科外来、午後は主に急患対応を行っています。小児科を受診する場合は多くは感冒をはじめとした感染症ですが、同じ感染症でも新生児や重症心身障害児、免疫不全のある児などでは対応が変わっていきます。感冒を契機とした喘息発作でも、周囲の喫煙者の有無や普段の管理の状態などによって、症状の強さ、経過には差があります。そのような中で、リスクが高いと判断された症例が、かかりつけ医の先生方から当院へ紹介となり、入院や綿密な外来でのフォローアップを行っていくこととなります。

その他専門性の高い領域に関しては長崎大学病院などの高次医療機関や他科の先生方、成長発達に関しては療育や学校、行政などと連携をはかりつつ、島原の地に生活している子供たちが心身とも健康に育っていく手助けができるよう、今後も尽力してまいります。

長崎県島原病院 緩和ケアセンター

緩和ケア認定看護師 市川 めぐみ

緩和ケアセンターは、全てのがん患者さんやご家族等に対して、診断時からより迅速かつ適切な緩和ケアを切れ目なく提供するため、これまでの「緩和ケアチーム」、「緩和ケア外来」等を統括し、組織的に活動を行っています。

患者さんやご家族が抱える苦痛を適切に汲み上げ、身体的苦痛緩和のための薬剤の迅速かつ適切な使用と普及を図るとともに、精神心理的・社会的苦痛にも対応するために、病棟ラウンドを定期的実施し、専門的緩和ケアに関するチーム医療を行っています。緩和ケアチーム構成は、医師・看護師を中心とした多職種チームで構成されており、あらゆる苦痛に対して迅速に緩和ケアが提供できるように活動しております。



地域の病院や在宅療養支援診療所等の医療従事者と協働して、定期的に話し合いを行い、情報共有の場を設けて、地域の緩和ケアの提供体制の実情を把握し、地域の緩和ケア提供体制を構築しています。また、院内外問わず、患者さん・ご家族、地域の医療従事者に対して診療情報にかかわる緩和ケア相談窓口を設置しております。



- **緩和ケア外来**：毎週月・水・木曜日
- * 完全予約制（事前に診療情報提供書を確認、後日指定日時をお知らせします）
- **緩和ケア相談窓口**：平日9:00～17:00
- * 相談無料（電話・面談可能）

～緩和ケアチームからのメッセージ～

「緩和ケア」について考えるタイミングは、「早すぎる」ことも「遅すぎる」こともありません。緩和ケアチームは、患者さん・ご家族の悩みや不安について、一緒に考え、納得できる選択をするために支援していきたいと思っています。自分らしい生活を送れるように、一人で抱え込まず、お気軽にご相談ください。



◇認定輸血検査技師資格を取得しました

検査科 輸血班 永田 久乃

血液は、赤血球・白血球・血小板といった細胞成分と血漿成分からできています。それらの成分は、全身に酸素を運んだり、出血を止めたりする働きを持っています。

怪我や手術により、生命に危険を生ずる程の出血があったときや白血病などの血液疾患により、自分で血液を造ることができなくなったときは、血液の働きを保つために、それらの成分を補う必要があります。輸血は、この不足した成分を、ヒト由来の血液製剤で補う治療法です。

日本で輸血を必要とする患者さんは1日平均3,000人おり、当院でも1日平均5人に輸血を行っています。

輸血は、他人の血液成分を体内に入れる移植の一種で、種々の副作用や合併症を伴うこともあります。臨床検査技師は、患者の皆さんに安全に輸血を受けていただくために、血液型検査などの輸血に関わる検査を正確に実施し、患者さんに適合する血液製剤を準備する役割を担っています。

安全な輸血を行うためには、知識・検査手技の習得・アップデートが必要不可欠です。

そこで、私は輸血についての理解を深め、適切な対応ができるように認定輸血検査技師を目指しました。

認定輸血検査技師は、認定輸血検査技師制度協議会が認めた臨床検査技師です。正しい輸血に関する知識を学び、的確な検査を行うための検査技術を習得することで、輸血の安全性の向上に寄与することを目的とした認定資格です。

2023年4月現在、全国で1,578人、長崎県では、26人が認定輸血検査技師の資格を持ち、病院、検査センター等で活動しています。

輸血に関する知識・技術は独学での習得が難しく、資格取得にあたり、長崎大学病院、長崎医療センターをはじめとする他施設の認定輸血検査技師に指導していただきました。座学での知識習得に加え、先輩方の指導の下、知識や検査技術の研鑽に励み、認定輸血検査技師試験に合格することができました。

輸血療法は、医師・看護師・臨床検査技師が三位一体となって行う治療です。安全な輸血療法を実践するために、知識や実技の向上を図るだけでなく、他職種との連携をとり、よりよい輸血実施体制を模索していく活動を継続する必要があると思います。

認定輸血検査技師には、輸血に関する最新の知見を発信し、その活動をリードしていく役割もあります。微力ながら、その活動を院内・院外にも広げ、地域医療の発展に貢献していきたいと考えています。

長崎県島原病院 外来診療一覧表

令和5年4月1日

診療科		月	火	水	木	金
脳神経外科		林 之茂	林 之茂	佐藤 慧	林 之茂	佐藤 慧
		吉村 正太	平山 航輔	吉村 正太		平山 航輔
脳神経外科急患対応		吉村 正太	佐藤 慧	林 之茂	平山 航輔	AM 吉村 正太 PM 平山 航輔
整形外科		伊藤 茂	岡崎 成弘	伊藤 茂	伊藤 茂	中村 智治
		中村 智治	高平 祥太郎	中村 智治	岡崎 成弘	高平 祥太郎
整形外科急患対応		中村 智治	高平 祥太郎	中村 智治	岡崎 成弘	高平 祥太郎
外科	消化器 一般 乳腺	蒲原 行雄	蒲原 行雄	前川 恭一郎	前川 恭一郎	村上 俊介
		佐藤 彩香	中村 瞬	村上 俊介	佐藤 彩香	中村 瞬
	小児外科専門外来				★松尾 繁年※ 小坂 太一郎※ (第1・3週14時～)	
外科急患対応		佐藤 彩香	中村 瞬	村上 俊介	前川 恭一郎	中村 瞬
心臓血管外科				長崎医療センター※ (第4週)		
内科	新患	町田 治久	吉原 絹子	大学医※	大学医※	寺澤 佳洋※
	血液内科	北之園 英明			北之園 英明	
	総合内科		吉原 絹子	吉原 絹子		
	消化器内科	町田 治久	宮副 誠司	山西 幹夫	山西 幹夫	宮副 誠司
					町田 治久	
	呼吸器内科	菅崎 七枝	福田 実	菅崎 七枝	(大学医※)	福田 実
			入舩 理			入舩 理
		★木下 明敏※ (13時30分～)			★木下 明敏※ (13時30分～)	
	循環器内科	大和 慎治			大和 慎治	大和 慎治
神経内科	北之園 寛子		貴田 秀樹※ (第2週13時30分～16時)			
肝臓内科			柴田 英貴※			
内科急患対応	8:45～13:00	入舩 理	町田 治久	招へい医※(大和)	福田 実	大学医※ (菅崎 七枝)
	13:00～17:30	吉原 絹子 (宮副 誠司)	大学医※ (山西 幹夫)	北之園 英明	菅崎 七枝	寺澤 佳洋※ (北之園 英明)
泌尿器科		平島 定	平島 定	★大学医※ (9時30分～)	平島 定	★大学医※ (9時30分～)
小児科		坂口 恭平	明石 周爾	坂口 恭平	明石 周爾	明石 周爾
小児神経専門外来 (再診患者のみ)			★原口 康平※ (第1週 10時30分～)			
麻酔科			柴田 茂樹		柴田 茂樹	
緩和ケア (予約制)		福田 実		山西 幹夫 ★酒井 武仁※(AM)	蒲原 行雄	
放射線科 (予約制)		石丸 豊	小幡 史郎 石丸 豊	小幡 史郎 石丸 豊	小幡 史郎 石丸 豊	★小幡 史郎 石丸 豊
リハビリテーション科				伊藤 茂(運動器)		
耳鼻いんこう科●		大学医※ (9時30分～12時30分)		大学医※ (9時30分～12時30分)		大学医※ (9時30分～12時30分)
外来化学療法室		菅崎 七枝	菅崎 七枝	菅崎 七枝	菅崎 七枝	菅崎 七枝
ストーマ外来			外科医師			
健診			徳永 能治(脳ドック) (第2週)			
			福田 実			

○受付時間は8時45分から11時までです。(なお、診療科によっては異なる場合があります。)

※招へい医師

○受付時間外に受診される場合は、急患対応となります。

★再診のみ

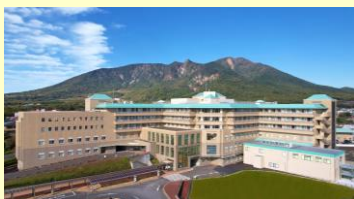
○円滑な診療と患者さんの待ち時間短縮のため、緊急性がない場合は連携予約をお願い致します。

○緩和ケア外来は、予約のみとなっております。事前に診療情報提供書をいただき、後日予約日時をお知らせ致します。

●耳鼻科受付時間は、9時から11時までです。

◎皮膚科、眼科は休診中です。

長崎県島原病院
電話 0957-63-1145
地域医療連携室(予約担当)
内線 106、116 (8:45～17:00)
FAX 0957-63-6544



発行／長崎県島原病院

外来受付時間

午前8:45～午前11:00 (土・日・祝日・年末年始を除く)

受付時間外に受診される場合は、救急対応となります。
※詳しくはホームページをご覧ください。

〒 855-0861 長崎県島原市下川尻町7895番地

TEL 0957-63-1145 FAX 0957-63-6544

URL <https://shimabarabyoin.jp>

右のQRコードからアクセスできます→

